

東日本大震災を経験した方の話を聞きました

5月10日（金）の総合的な学習の時間に、東日本大震災で地震と津波を経験され、現在はあま市に在住の方をお招きして講話をしていただきました。ご自身で描いたイラストを体育館の前面に映し出しながらの講話でした。「昼寝をしている時に、『ゴゴゴ』という凄まじい音と共に揺れが始まった。お隣さんとともに近くの避難所である小学校に行き、3日間電気・ガス・水道が止まっている状況で生活をした。夜は余震と緊急地震速報、発電機のエンジン音、泣き叫ぶ声でとても不安だった」と話されていました。

講演の最後には、タイムマシンのイラストを映し出し、「避難所での生活は電気・ガス・水道がない時代にタイムスリップしたようだった。太陽が昇るとともに起床し、太陽が沈むとともに就寝する。現代では考えられない生活だけど、それはそれで『幸せ』と感ずることもあった。家族と一緒に、仲の良い近所の方とも近くにいられたことが大きかった。だから、『地域』を大切にしたい」と話されていました。

また、NPO 法人防災津島の会と津島市社会福祉協議会の方にもご来校いただき、災害ボランティアセンターの役割について教えていただきました。「もしも」の災害時、ボランティアに参加し、復興に貢献してほしい。実際の災害では、高校生や大学生も多く活躍しているという話がありました。「もしも」の時、人を助けることができる人になってほしいと思います。



休憩中に質問をする生徒



講演のラスト 「タイムマシーン」

授業後の生徒の振り返り

- ・被災した時用の大きいリュックをお母さんが買ってきたけど、まだ何もリュックにつめていなくて、今日講話を聞いて「あーやばい」と思ったので、家に帰ったらお母さんと相談してリュックに必要な物をつめておこうと思いました。
- ・トイレ掃除をしているのが小学校6年生だったと聞いて驚きました。当たり前で衣食住がそろって家族と生活ができていたことは幸せなことだと改めて思いました。
- ・避難所の1人あたりのスペースが半畳くらいしかない聞いてとても驚きました。また、地震が起きた時に備え、防災バックに入っているトイレを5個から15個にしようと思いました。
- ・この先、この地域で地震や災害が起きたときは、講話を思い出して、冷静に行動したいです。また、どこかで地震や災害が起きたときには、ぜひボランティアに行きたいと思いました。
- ・南海トラフはもうすぐ起きると言われているし、その前兆はいつきてもおかしくないから、今の防災対策を見直した方がよいと思いました。
- ・危険時の嬉しさや幸せさ、悲しさはいつもより大きくなることを知り、感情の変化が大きいことが分かったので、「今」の時間をいつもより大切に過ごしていきたいと思いました。1人1人が行動・言動に責任をもって動くことで、より多くの命を救うことができる、誰もが幸せになれると思うので、私自身が責任をもって取り組んでいきたいと思いました。

生徒の振り返りでは、「家族に今日の話伝えたい」「家の防災対策を見直したい」「倒れてくるものがないか確認したい」など自分の家族について考えているものが見られました。ご家庭で防災について話題にし、話をしていただけると助かります。よろしくお願いたします。